人文科学研究科

01　国文学専攻　Japanese Literature

(1)　修士課程

●　目的

国文学専攻は，本学建学の理念に基づき，国語学・国文学・漢文学に関する分野における研究能力，または国語学・国文学・漢文学に関する高度の専門性を要する職業等に必要な能力を有する人材の養成を目的とする。

●　修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

国文学専攻修士課程は，教育の理念に基づいて定められた下記の３つの能力を身につけ，所定の期間在学し，国文学専攻が定める所定の単位を修め，必要な研究指導を受けたうえ，修士論文を提出してその審査および最終試験に合格した学生に対して修了を認定し，学位を授与する。

国文学専攻は，「修士」の学位の質保証のため，カリキュラム・ポリシーを綿密に履行することを十分に意識してカリキュラムを構築し，学位の客観的な保証を行う。

DP：ディプロマ・ポリシー

(DP1)	専門分野の知識や技能の活用力
	国語学･国文学･漢文学に関する専門的な知識と幅広い知見，豊かな読解力や表現力等の能力を身につけている。その専門知識を活かし，教育機関等において，優れた先導者として活動することができる。また，国際交流が不可欠となった現代社会において，専門知識の習得を通じて日本文学・文化を深く理解し，その価値や意義を世に広く発信することができる。
(DP2)	情報分析，課題設定および問題解決能力
	国語学･国文学･漢文学に関する基礎的な知識や先行研究を踏まえ，自ら主体的に課題を設定する力と，さらに高度で専門的な情報を収集･分析して適正に判断・思考しながら，問題解決までの道筋を論理的に展開できる実行力や新たな知見を見出す能力を兼ね備えている。
(DP3)	コミュニケーション能力
	論文作成や演習，研究発表等の場において，自らの研究課題や問題意識を他者に的確に伝えることができる。さらに他者と討論することによって，より知見を広め新たな課題を発見することができる。また，研究倫理を身につけ，適切な方法で世に広く研究成果を発信することができる。

●　教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

国文学専攻修士課程では，「修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた３つの能力を養成するために，国語学・国文学・漢文学に関する高度な研究能力を有する人材を育成するための総合的，体系的な教育課程を提供する。さらに，その教育内容については常に自己点検・評価を行い，不断の改善に努める。具体的には，課程を通じた学修成果として提出される学位論文について，その審査基準を明確にし，そこから得られた評価結果を基に，不断に教育内容の見直しを行い，改善を加える。

また，論文執筆や学会における口頭発表の場において論文盗用などの研究倫理に反する行為が行われないよう，カリキュラムの中で研究倫理に関する意識の醸成を図る。

教育内容，教育方法，評価については，下記に定める内容に従う。

１．教育内容

1）講義科目は，専門基礎力および学術研究の基礎を涵養し，理論的・実践的基盤を築くための教授と指導を行う。
2）演習科目は，専門領域・研究課題に応じて，修士論文の作成上必要とされる指導や議論を繰り返すことにより，具体的かつ綿密な研究指導を行う。
3）１～２の集大成として提出される修士論文を完成させ，それについて，審査および口頭試問を実施する。

２．教育方法

1）講義科目では，基礎的な研究手法を体得し各人の研究能力を伸張すべく，少人数での個別・グループ形式での授業を行う。
2）演習科目を中心とする，修士論文の作成指導においては，教員と学生との間で「学位授与の方針」および「学位論文審査基準」を共有し，密接なコミュニケーションを取りながら，論文の完成に向けて丁寧な指導を行う。
3）国語学・国文学・漢文学における専門的な講義，演習科目を配置する。学習者がそれらの関連分野を組織的に履修することによって，自己の専門領域に留まることのない，幅広い知見と研究方法を修得できるような課程編成となっている。
4）単位互換協定を結んだ他大学の講義を受講することも可能である。
5）学生は「駒澤大学大学院国文学会」会員として，研究雑誌『論輯』の発行，「大学院秋季研究発表大会」の開催など，自主的な研究活動を行い，教員はそれをバックアップする。

6）修士論文の審査は，主査１名と副査２名以上で構成される審査委員により，「学位論文審査基準」に則り厳格な審査がなされる。口頭試問においては，「学位授与の方針」に基づき，学位授与に必要とされる専門的な学識，技能，研究能力を身につけていることを詳細に確認する。

7）研究倫理教育は，一般的な内容についてはeラーニング等の方法で学び，国文学研究特有の研究倫理については，研究指導等を通じて指導することにより補完する。

３．評価

修士課程では，修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー），教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー），入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）の３つのポリシーに基づき，学生の入学時から修了後までの成長を視野に入れ，科目履修・修士論文の達成度における学修成果の評価・測定を行う。

● 修了の要件

1．修士課程に２年以上在学し，30単位以上修得し，かつ，必要な研究指導を受けた上，修士論文を提出してその審査及び最終試験に合格しなければならない。

2．各年次の履修単位数は，原則として１年次は指導教員の演習４単位を含む20単位以上30単位未満とし，２年次は指導教員の演習を含む４単位以上とする。

年　次	必修科目	選択科目	合　計
１年次	指導教員の演習４単位	22単位以上	30単位以上
２年次	指導教員の演習４単位		

● 履修上の注意

1．履修科目の選択にあたっては，指導教員の指導を受け，研究テーマに関連の深い全科目にわたって履修すること。

2．指導教員が必要と認めた場合には，指導教員以外の演習科目の中から10単位，他専攻の講義科目の中から４単位を上限として履修することができる。その場合は，その科目の担当教員の承諾を得ること。

3．指導教員が必要と認めた場合は，交流協定校「学生交流協定（他大学大学院および大学共同利用機関履修）<P.20>」の授業科目を履修することができる。

4．他専攻修得単位・他大学大学院修得単位・協定（認定）校留学により修得した単位は合計15単位を上限として，修了に必要な単位として認定することができる。

5．他系統学部出身者には，当該専攻に関わる学部出身者と同等の基礎学力を充足させるため，大学院の正規授業科目以外に指導教員が必要と認めた場合，学部で開講している関連基礎科目（指導教員の指定する科目）の特別履修を課すことがある。ただし，関連基礎科目の単位は認定しない。

6．一度単位を修得した科目は，担当者が異なっても再度履修することはできません（指導教員の演習科目を除く）。

● 学位論文について

〈中間発表・報告会〉

専攻全体で秋季研究発表大会を行う。発表者のプレゼンテーションの後，専攻の教員および参加者による質疑応答を行う。講評は，発表ごとに，質疑応答の後に指導教員より口頭で行う。

〈学位論文審査基準〉

1．明確な問題意識があり，研究対象が明示されていること。

2．研究課題解決のための，明晰な方法論を備えていること。

3．研究史を精査したうえで，自己の研究の位置づけが明確に為されていること。

4．研究における論理性と実証性がともに満たされていること。

5．表記，表現及び論述が適切であり，明晰な構成のもとに成立していること。

6．研究における学術上の成果と意義が認められること。

〈論文審査・学識確認〉

審査員は，主査１名，副査２名で構成され，副査には必要に応じて他の専攻，大学，研究所などに所属する専門家を含むことがある。最終試験は，提出された論文を踏まえ，審査員が，口頭試問形式により学識確認を行う。上記審査基準により，主査・副査が点数を付け，その平均点をもって修士論文の評点とする。成績評価は履修科目と同様の基準で付される。

なお，論文作成要領・提出要領と，提出された論文の取扱いについては，21ページ以降を参照すること。

● ルーブリック【修士論文・課題研究】

DP	評価項目	評価の視点	S	A	B	C
	1）研究主題の設定理由・目的の明確性	発展可能性	より重要な研究へと発展することが確実なテーマである	より重要な研究へと発展することが可能なテーマである	より重要な研究へと発展する可能性の有無についてははっきりしない	より重要な研究へと発展する可能性が見込めないテーマである
		目的の明示	研究の目的が的確に述べられており，その目的のために当該研究で何をどう進めていくのかというプランも明確にされている	研究の目的は述べられており，その目的を達成するためにどのように進めていくのかもほぼ明らかである	研究の目的はおおよそ述べられているが，その目的を達成するためにどのように進めていくかはやや不明確である	研究の目的が明確には述べられていない
	2）研究の社会的意義・貢献性	研究の社会的意義・貢献性	現代社会，国際社会における課題の解決や理解の深化に直接関連するテーマを設定している	現代社会，国際社会における課題の解決や理解の深化に関するテーマを設定している	現代社会，国際社会における課題の解決や理解の深化にほとんど関連しないテーマを設定している	現代社会，国際社会における課題の解決や理解の深化とは無関係なテーマを設定している
	3）研究の主体性・独自性	独自性	関連する先行研究を網羅した上で，当該論文のテーマが独創的であることが明確に示されている	関連する先行研究に当該論文と類似するテーマがないわけではないが，一定の独自性を有すると認められる	すでにほぼ同様のテーマの先行研究があるが，独自性を有する部分も認められる	すでに同様のテーマの先行研究が存在しており，独自性に乏しい
	4）研究方法論の適切性・妥当性	計画・準備	指導教員との協議を通して研究計画書を作成し，研究レビュー，データ収集，分析，執筆などの具体的な活動をいつ実施するか明確である	指導教員との協議を通して研究計画書を作成し，研究レビュー，データ収集，分析，執筆などの具体的な活動をいつするかほぼ明確である	指導教員との協議を通して研究計画書を作成したが，研究レビュー，データ収集，分析，執筆などの具体的な活動をいつ実施するかやや不明確である	何をいつどこまで進めるか研究計画が立てられていない
		研究倫理	研究に関わる倫理上の問題について，大学が指定した研究倫理eラーニングを受講し，十分に考慮し，必要な対応を済ませた上で，研究活動を行っている	研究に関わる倫理上の問題について，大学が指定した研究倫理eラーニングを受講し，必要な対応を行いつつ研究活動を行っている	大学が指定した研究倫理eラーニングを受講したが，研究に関わる倫理上の問題への考慮・対応が十分とはいえない	大学が指定した研究倫理eラーニングを受講しておらず，研究に関わる倫理上の問題について理解してない
		研究方法の適切性	研究目的を達成させるために最もふさわしいと考えられる研究方法を選択している	研究目的を達成するのに適していると考えられる研究方法を採用している	研究目的を達成するのに相応しい研究方法であるかやや疑問である，あるいは他にさらに適当な方法が存在している	研究目的と研究方法とが合致していない
	5）引用された文献・資料の十分性・適切性・妥当性	データ・資料の量	研究目的を達成するために選択した研究方法，分析方法を実施するのに十分適合する量のデータや資料を収集している	研究目的を達成するために選択した研究方法，分析方法を実施するのにほぼ十分な量のデータや資料を収集している	データや資料を収集しているが，選択した研究方法，分析方法を実施するのに十分な量とはいいづらい	収集した量のデータや資料では，選択した研究方法，分析方法を実施できない
	6）結果考察の妥当性	結果の表現	結果を適切に表現するために，適切な図表等が作成・配置されている	結果を適切に表現するために必要な図表等がおおよそ作成されており，ほぼ問題なく配置されている	結果を表現するために図表等が用いられているが，必要とはいえないものや冗長なものがあったり，必要なものがないために理解しにくい箇所がある	結果を表現するために必要な図表等がほとんど作成されていない
	7）論旨の一貫性・連続性・論理性	結果の解釈とまとめ	参考資料や得られたデータに基づいて客観的で公平な解釈を行なっている。予想や仮説に一致しない結果も重要な結果と捉えている	参考資料や得られたデータに基づいて客観的で公平な解釈を行なっている。予想や仮説に一致しない結果は例外として処理している	結果の解釈そのものに歪曲した形跡はないが，一部に予想や仮説に一致した点だけを結果として捉えている箇所がある	予想や仮説に一致する結果だけを報告している，あるいは結果の解釈に一部歪曲が認められる
	8）当該専門分野における先行研究の成果を充分に踏まえているか	成果の水準	当該分野において，新しい事象の発見，あるいはこれまで不明とされていた問題点を再考するなどしており，参考資料や得られたデータの分析も的確である	当該分野において，参考資料や得られたデータに基づいて有意義な知見や発見等が提示されている	提示された知見が，当該分野において有意義なものといえるかどうか，やや疑問が残る	当該分野において，有意義な知見が提示されたとはいえない
	9）独自の研究成果が学術論文の形式でまとめられているか	記述法・ルール	論文が学術的に記述され，当該分野の学会で一般的に利用されている執筆規定に従って書かれている	論文が学術的に記述され，当該分野の学会で一般的に利用されている執筆規定にもほぼ従っている	論文が学術的に記述されたとはいうには不十分であり，当該分野の学会で一般的に利用されている執筆規定に従っていない部分がある	論文が学術的に記述されておらず，当該分野の学会で一般的に利用されている執筆規定にもあまり従っていない

■… 研究計画書や中間発表の時のみのチェック項目

● 開講科目

科目名称	学習方法	単位数	開講期間	担当者	DPとの関連性			備　考
					DP1	DP2	DP3	
古代前期文学特講	講義	4	通年	仲　谷　健太郎	◎	○		
古代前期文学研究	講義	4	通年	仲　谷　健太郎	○	◎		(隔年度開講のため本年度休講)
古代前期文学演習	演習	4	通年	仲　谷　健太郎		○	◎	
古代後期文学特講Ⅰ	講義	4	通年	松　井　健　児	◎	○		
古代後期文学研究Ⅰ	講義	4	通年	松　井　健　児	○	◎		(隔年度開講のため本年度休講)
古代後期文学演習Ⅰ	演習	4	通年	松　井　健　児		○	◎	
中世文学特講Ⅰ	講義	4	通年	田　中　徳　定	◎	○		
中世文学研究Ⅰ	講義	4	通年	田　中　徳　定	○	◎		(隔年度開講のため本年度休講)
中世文学演習Ⅰ	演習	4	通年	田　中　徳　定		○	◎	
中世文学特講Ⅱ	講義	4	通年	櫻　井　陽　子	◎	○		
中世文学研究Ⅱ	講義	4	通年	櫻　井　陽　子	○	◎		(隔年度開講のため本年度休講)
中世文学演習Ⅱ	演習	4	通年	櫻　井　陽　子		○	◎	
近世文学特講Ⅰ	講義	4	通年	近　衛　典　子	◎	○		
近世文学研究Ⅰ	講義	4	通年	近　衛　典　子	○	◎		(隔年度開講のため本年度休講)
近世文学演習Ⅰ	演習	4	通年	近　衛　典　子		○	◎	
近代文学特講Ⅰ	講義	4	通年	加　藤　邦　彦	◎	○		
近代文学研究Ⅰ	講義	4	通年	加　藤　邦　彦	○	◎		(隔年度開講のため本年度休講)
近代文学演習Ⅰ	演習	4	通年	加　藤　邦　彦		○	◎	
近代文学特講Ⅱ	講義	4	通年	岡　田　　豊	◎	○		
近代文学研究Ⅱ	講義	4	通年	岡　田　　豊	○	◎		(隔年度開講のため本年度休講)
近代文学演習Ⅱ	演習	4	通年	岡　田　　豊		○	◎	
近代文学特講Ⅲ	講義	4	通年	倉　田　容　子	◎	○		
近代文学研究Ⅲ	講義	4	通年	倉　田　容　子	○	◎		(隔年度開講のため本年度休講)
近代文学演習Ⅲ	演習	4	通年	倉　田　容　子		○	◎	
国語学特講Ⅰ	講義	4	通年	土　井　光　祐	◎	○		
国語学研究Ⅰ	講義	4	通年	土　井　光　祐	○	◎		(隔年度開講のため本年度休講)
国語学演習Ⅰ	演習	4	通年	土　井　光　祐		○	◎	
国語学特講Ⅱ	講義	4	通年	三　樹　陽　介	◎	○		(本年度休講：在外研究)
国語学研究Ⅱ	講義	4	通年	三　樹　陽　介	○	◎		(隔年度開講のため本年度休講)
国語学演習Ⅱ	演習	4	通年	三　樹　陽　介		○	◎	(本年度休講：在外研究)
漢文学特講	講義	4	通年	山　口　智　弘	◎	○		
漢文学研究	講義	4	通年	山　口　智　弘	○	◎		(隔年度開講のため本年度休講)
漢文学演習	演習	4	通年	山　口　智　弘		○	◎	

◎：特に重視している　○：重視している

⑵　博士後期課程

●　目的

国文学専攻は，本学建学の理念に基づき，国語学･国文学･漢文学に関する分野における研究者として自立して研究活動を行い，または国語学･国文学・漢文学に関する高度に専門的な業務に従事するために必要な，高度の研究能力およびその基礎となる豊かな学識を有する人材の養成を目的とする。

●　修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

国文学専攻博士後期課程は，教育の理念に基づいて定められた下記の３つの能力を身につけ，所定の期間在学し，国文学専攻が定める所定の単位を修め，必要な研究指導を受けた上，博士論文を提出してその審査および最終試験に合格した学生に対して修了を認定し，学位を授与する。

DP：ディプロマ・ポリシー

(DP1)	高度な専門分野の知識や技能の活用力
	国語学・国文学・漢文学に関する高度な知識と幅広い知見を身につけている。研究・教育機関等において，高度に専門性な業務に従事するために必要な高い研究能力および深い学識を有する，自立した研究者として活動できる。また，国際交流が不可欠となった現代社会において，専門知識の習得を通じて日本文学･文化を深く理解し相対化した上で，その価値や意義を世に広く発信することができる。
(DP2)	情報分析，課題設定および問題解決能力
	自立した研究者として，国語学・国文学・漢文学の各分野において，独創的な観点から課題を設定し，専門的な学識や技能を用いながら継続的，発展的な研究の遂行と研究成果の蓄積，発信をすることができる。常に最先端の研究ツールや手法を取り入れながら専門的な研究の情報を収集するだけでなく，それらを分析･検討することによって，新しい知見を導き出すことのできる高度な判断力を有する。
(DP3)	コミュニケーション能力
	学術論文執筆や学会発表，研究会での研鑽などを通じて，自らの独創的な研究成果や新たな知見を国内外の学会に発信すると同時に，他者の考えと価値観を尊重しつつ，専門的な知見から論理的に意見を述べるなど，主体的に協働することができる。また，従来の分野を越えた新たな研究テーマに取り組むなど，意欲的に他者との交流ができる。また，研究倫理を踏まえ，適切な方法やツールを用いて自らの研究業績を発信し，自ら導き出した新知見の社会的な活用や定着を模索することができる。

●　教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

国文学専攻博士後期課程では，「修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた３つの能力を養成するために，国語学・国文学・漢文学に関する高度な研究能力を有する人材を育成するための総合的，体系的な教育課程を提供する。さらに，その教育内容については常に自己点検・評価を行い，不断の改善に努める。特に，博士後期課程における教育課程編成と実施は，授与する学位との関係において実質的な関連を有するものであり，かつその専門性は専門研究者としての必要不可欠な領域と対象を反映したものとする。

また，課程を通じた研究の成果として提出される学位論文について，その審査基準を明確にし，博士論文の評価結果を基に，学位を授与された者がさらなる研究の向上・進展を図ることができるように指導を行う。同時に，本専攻の指導のあり方や社会的責任について，改善を加える。

また，論文執筆や学会における口頭発表等の場において論文盗用などの研究倫理に反する行為が行われないよう，カリキュラムの全ての要素の中で研究倫理に関する意識の醸成を図る。

教育内容，教育方法，評価については，下記に定める内容に従う。

１．教育内容

1）講義科目は，豊かな専門知識と研究能力のさらなる向上を目的として，先行研究の批判的検討，文献講読，データ収集指導，論文作成等に関わる教授と指導を行う。

2）研究指導科目は，専門領域・研究課題に応じて博士論文作成上必要とされる指導や議論を繰り返すことにより，緻密な研究指導を行う。演習形式で研究指導を実施することもある。

２．教育方法

1）講義科目では，豊かな専門知識と発展的な研究能力を深化させ，少人数での個別・グループ形式で授業を行う。

2）研究指導では，課題設定の独創性，研究計画の妥当性や実現性について客観的に評価・助言し，学術論文執筆や学会発表の指導を行い，博士論文作成に向けての研究業績を積み上げさせる。

3）研究指導を中心とする，博士論文の作成指導においては，教員と学生との間で「提出要件」，「学位授与の方針」および「学位論文審査基準」を共有し，密接なコミュニケーションを取りながら指導する。

4）講義科目と研究指導科目は単独のものではなく，有機的な関連をもって各学生の研究活動を支える。

5）学生は「駒澤大学大学院国文学会」会員として，研究雑誌『論輯』の発行，「大学院秋季研究発表大会」の開催など，自主的な研究活動を行い，教員はそれをバックアップする。

6）博士論文の提出については，指導教員が進捗状況だけでなく，国文学専攻で定める「提出要件」を満たしていることを確認する。提出された博士論文の審査にあっては，主査１名と副査２名以上で構成される審査委員により，「学位論文審査基準」に則り厳格な審査がなされる。最

終試験においては，「学位授与の方針」に基づき，学位授与に必要とされる専門的な学識，技能，研究能力，語学力を身につけていることを詳細に確認する。

7）研究倫理教育は，一般的な内容についてはeラーニング等の方法で学び，国文学研究特有の研究倫理については，研究者として自立して研究を遂行できるよう，研究指導を通じて補完する。

3．評価

博士後期課程では，修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー），教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー），入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）の３つのポリシーに基づき，学生の入学時から修了後までの成長を視野に入れ，学修成果の評価・測定を行う。

● 修了の要件

1．博士後期課程に３年以上在学し，かつ，所定の科目（指導教員の講義）について12単位以上修得し，必要な研究指導を受けた上，博士論文を提出してその審査及び最終試験に合格しなければならない。
2．指導教員の講義と研究指導は，毎年履修すること。

年　次	必修科目	選択科目	合　計
１年次	指導教員の講義４単位および研究指導	修得単位は任意	12単位以上
２年次	指導教員の講義４単位および研究指導		
３年次	指導教員の講義４単位および研究指導		

● 履修上の注意

指導教員が必要と認めた場合は，選択科目として指導教員以外の講義を履修することができる。その場合は，その科目の担当教員の承諾を得ること。

● 学位論文について

〈中間発表・公聴会〉

専攻全体で秋季研究発表大会を行う。発表者のプレゼンテーションの後，専攻の教員および参加者による質疑応答を行う。講評は，発表ごとに，質疑応答の後に指導教員より口頭で行う。

〈学位論文提出要件〉

1．所定の時期に仮論題を提出し，受理されていること。
2．博士論文テーマに関する論文が３本以上あること。
3．2．の論文には，審査を経たものが１本以上含まれていることが望ましい。
4．事前に指導教員と十分に相談し，論文提出についての承認を得ること。

〈学位論文審査基準〉

1．明確な問題意識があり，研究対象が明示されていること。
2．研究課題解決のための，明晰な方法論を備えていること。
3．研究史を精査したうえで，自己の研究の位置づけが明確に為されていること。
4．研究における論理性と実証性がともに満たされていること。
5．表記，表現および論述が適切であり，明晰な構成のもとに成立していること。
6．研究における学術上の成果と意義が認められること。
7．学術研究における独創性と将来性を兼ね備えていること。

〈論文審査・学識確認〉

審査員は，主査１名，副査２名以上で構成され，副査には必要に応じて他の専攻，大学，研究所などに所属する専門家を含むことがある。上記の基準により，論文審査を実施する。最終試験は，審査員が，提出された論文に基づき，口答または筆答による学識確認を行い，外国語試験は予め申請した１か国語（母語は不可）で実施する。審査結果は，研究科委員会において報告される。

なお，論文提出要領等については，25ページ以降を参照すること。

● 開講科目

科目名称	学習方法	単位数	開講期間	担当者	DPとの関連性			備　考
					DP1	DP2	DP3	
古代前期文学特殊研究	講義	4	通年	仲　谷　健太郎	○	◎	○	
古代前期文学研究指導	研究指導	―	通年		○	◎	○	
古代後期文学特殊研究Ⅰ	講義	4	通年	松　井　健　児	○	◎	○	
古代後期文学研究指導Ⅰ	研究指導	―	通年		○	◎	○	
中世文学特殊研究Ⅰ	講義	4	通年	田　中　徳　定	○	◎	○	
中世文学研究指導Ⅰ	研究指導	―	通年		○	◎	○	
中世文学特殊研究Ⅱ	講義	4	通年	櫻　井　陽　子	○	◎	○	
中世文学研究指導Ⅱ	研究指導	―	通年		○	◎	○	
近世文学特殊研究Ⅰ	講義	4	通年	近　衛　典　子	○	◎	○	
近世文学研究指導Ⅰ	研究指導	―	通年		○	◎	○	
近代文学特殊研究Ⅰ	講義	4	通年	加　藤　邦　彦	○	◎	○	
近代文学研究指導Ⅰ	研究指導	―	通年		○	◎	○	
近代文学特殊研究Ⅱ	講義	4	通年	岡　田　　豊	○	◎	○	
近代文学研究指導Ⅱ	研究指導	―	通年		○	◎	○	
近代文学特殊研究Ⅲ	講義	4	通年	倉　田　容　子	○	◎	○	
近代文学研究指導Ⅲ	研究指導	―	通年		○	◎	○	
国語学特殊研究Ⅰ	講義	4	通年	土　井　光　祐	○	◎	○	
国語学研究指導Ⅰ	研究指導	―	通年		○	◎	○	
国語学特殊研究Ⅱ	講義	4	通年	三　樹　陽　介	○	◎	○	（本年度休講：在外研究）
国語学研究指導Ⅱ	研究指導	―	通年		○	◎	○	
漢文学特殊研究	講義	4	通年	山　口　智　弘	○	◎	○	
漢文学研究指導	研究指導	―	通年		○	◎	○	

◎：特に重視している　○：重視している